

V. ヒジキへの主な付着生物（植物）

平成 24 年度に行ったヒジキへの付着物調査の結果を以下に示します。

表中の付着率は、観察を行った 10 本の主枝のうち、付着生物が観察された主枝の数が 0 本、1~3 本、4~6 本、7~10 本の場合をそれぞれー、+、++、+++として表しています。

表V-1 クロガシラ類（褐藻綱）のヒジキへの付着率

調査点	H24年			H25年					
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
上浦	+	+	+	-	+++	+++	+++	+++	+++
日出	-	-	-	+	++	+++	+	+++	+++
国見	+	-	++	+	+++	+++	+++	+++	+++

ー:0%、+:30%以下、++:60%以下、+++100%以下

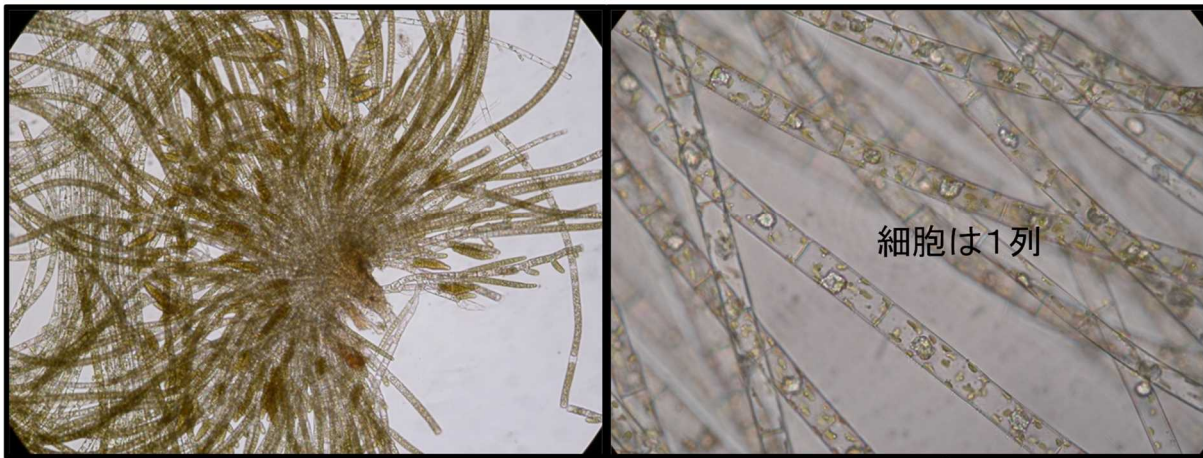
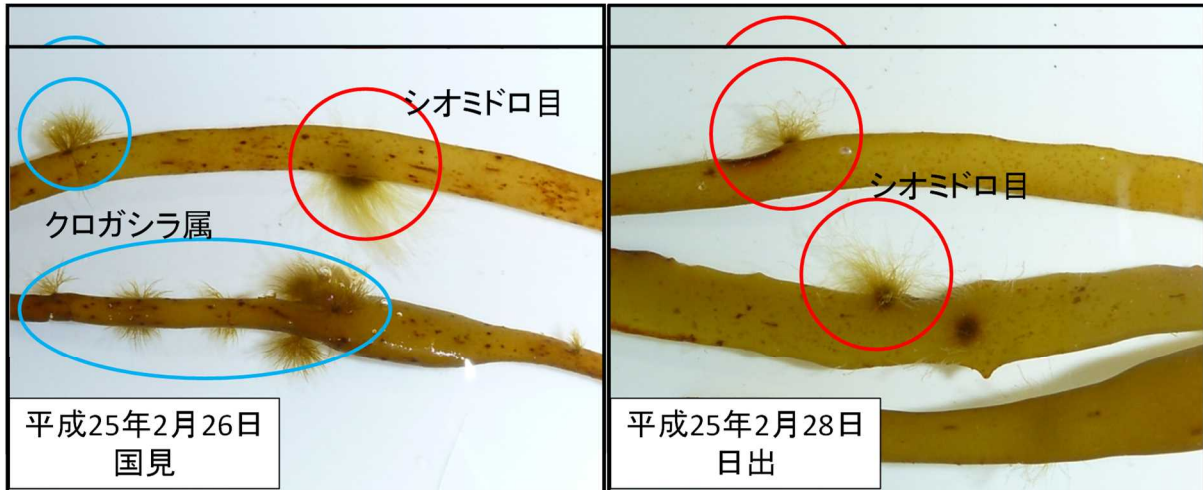


図V-1 ヒジキへの付着がみられたクロガシラ類（褐藻綱）

表V-2 シオミドロ類（褐藻綱）のヒジキへの付着率

調査点	H24年			H25年					
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
上浦	-	-	-	-	-	-	-	-	+++
日出	+	-	-	+	+	-	+	+	+++
国見	-	-	-	-	+	+	+	-	++

－:0%、+:30%以下、++:60%以下、+++100%以下



図V-2 ヒジキへの付着がみられたシオミドロ類（褐藻綱）

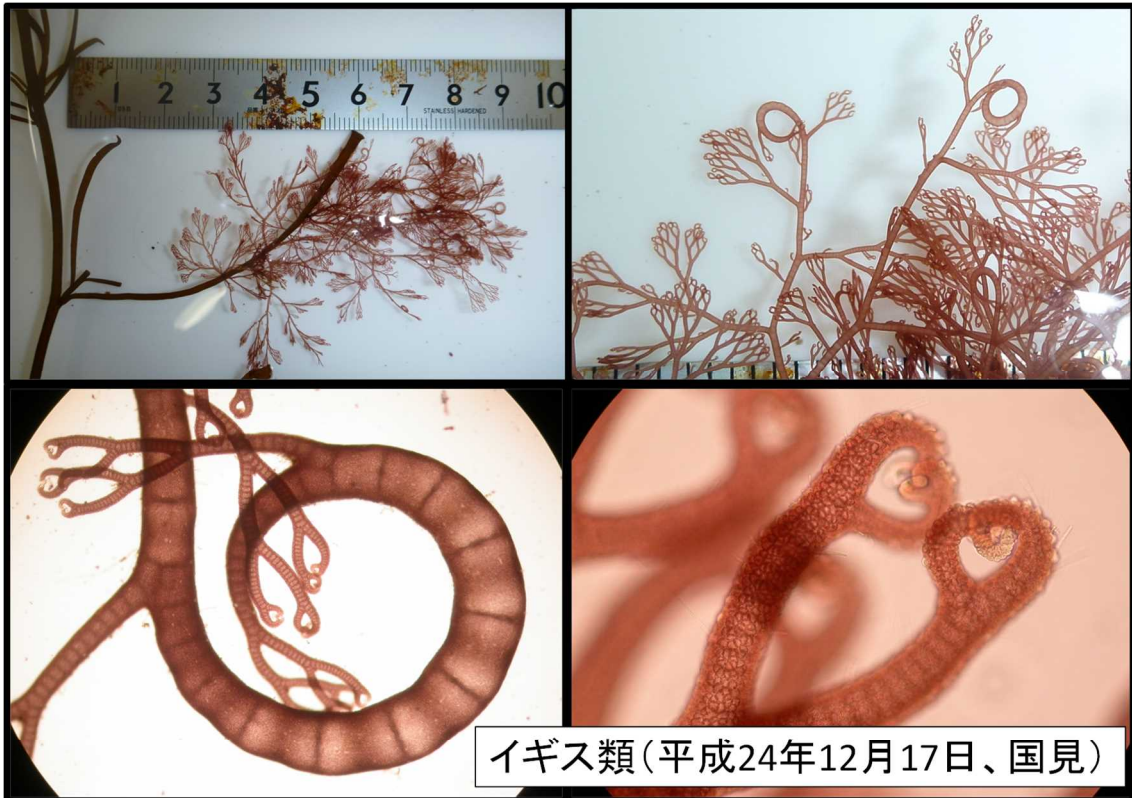
表V-3 ユナ（紅藻綱）のヒジキへの付着率

調査点	H24年			H25年					
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
上浦	-	+++	+	++	+++	+++	+++	+	+
日出	-	+	-	-	-	-	-	-	-
国見	+	-	-	-	-	+	+	++	++

－:0%、+:30%以下、++:60%以下、+++100%以下



図V-3 ヒジキへの付着がみられたユナ（紅藻綱）

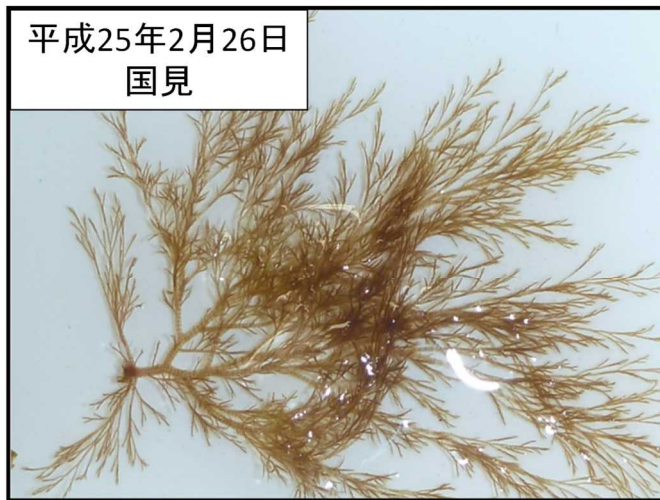


イギス類(平成24年12月17日、国見)



イギス類(平成24年12月17日、国見)

図V-4 ヒジキへの付着がみられたイギス類(紅藻綱)



図V-5 ヒジキへの付着がみられたイトグサ類（紅藻綱）



図V-6 ヒジキへの付着がみられたリクモフォラ類（珪藻綱）

VI. ヒジキへの主な付着生物（動物）

平成 24 年度に行ったヒジキへの付着物調査の結果を以下に示します。

表中の付着率は、観察を行った 10 本の主枝のうち、付着生物が観察された主枝の数が 0 本、1~3 本、4~6 本、7~10 本の場合をそれぞれ－、＋、＋＋、＋＋＋として表しています。

表VI-1 キイロウミシバ（腔腸動物ヒドロ虫綱）のヒジキへの付着率

調査点	H24年			H25年					
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
上浦	+	+	+	+	+	+	++	++	+
日出	-	-	-	-	-	-	-	-	-
国見	-	-	-	-	-	-	-	++	++

－:0%、＋:30%以下、＋＋:60%以下、＋＋＋100%以下

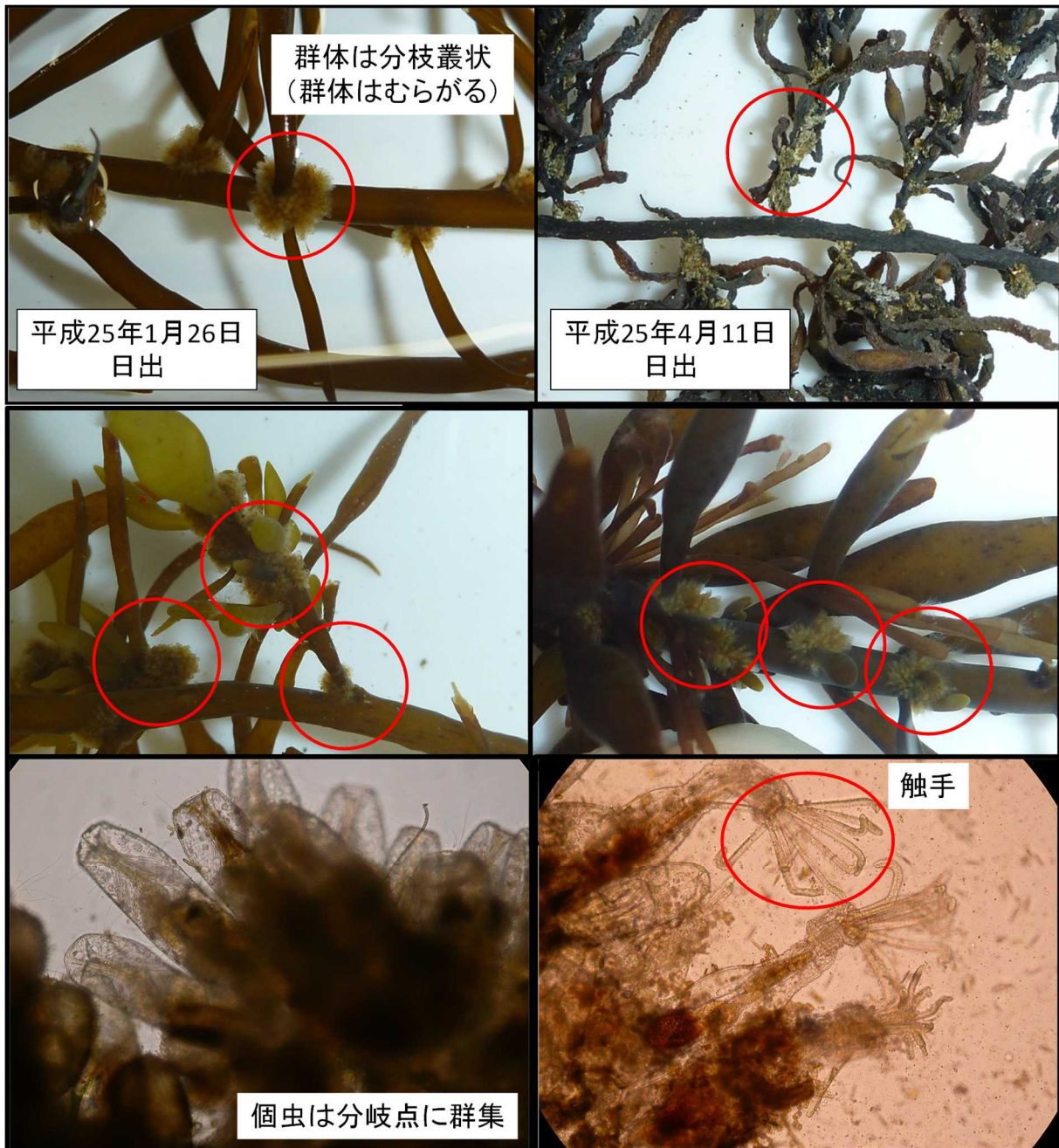


図VI-1 ヒジキへの付着がみられたキイロウミシバ（腔腸動物ヒドロ虫綱）

表VI-2 フクロコケムシ類（触手動物コケムシ綱）のヒジキへの付着率

調査点	H24年			H25年					
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
上浦	-	-	-	+	-	-	+	-	-
日出	-	-	+	+	+	++	++	+++	+++
国見	-	-	-	-	-	-	-	-	-

-:0%、+:30%以下、++:60%以下、+++100%以下

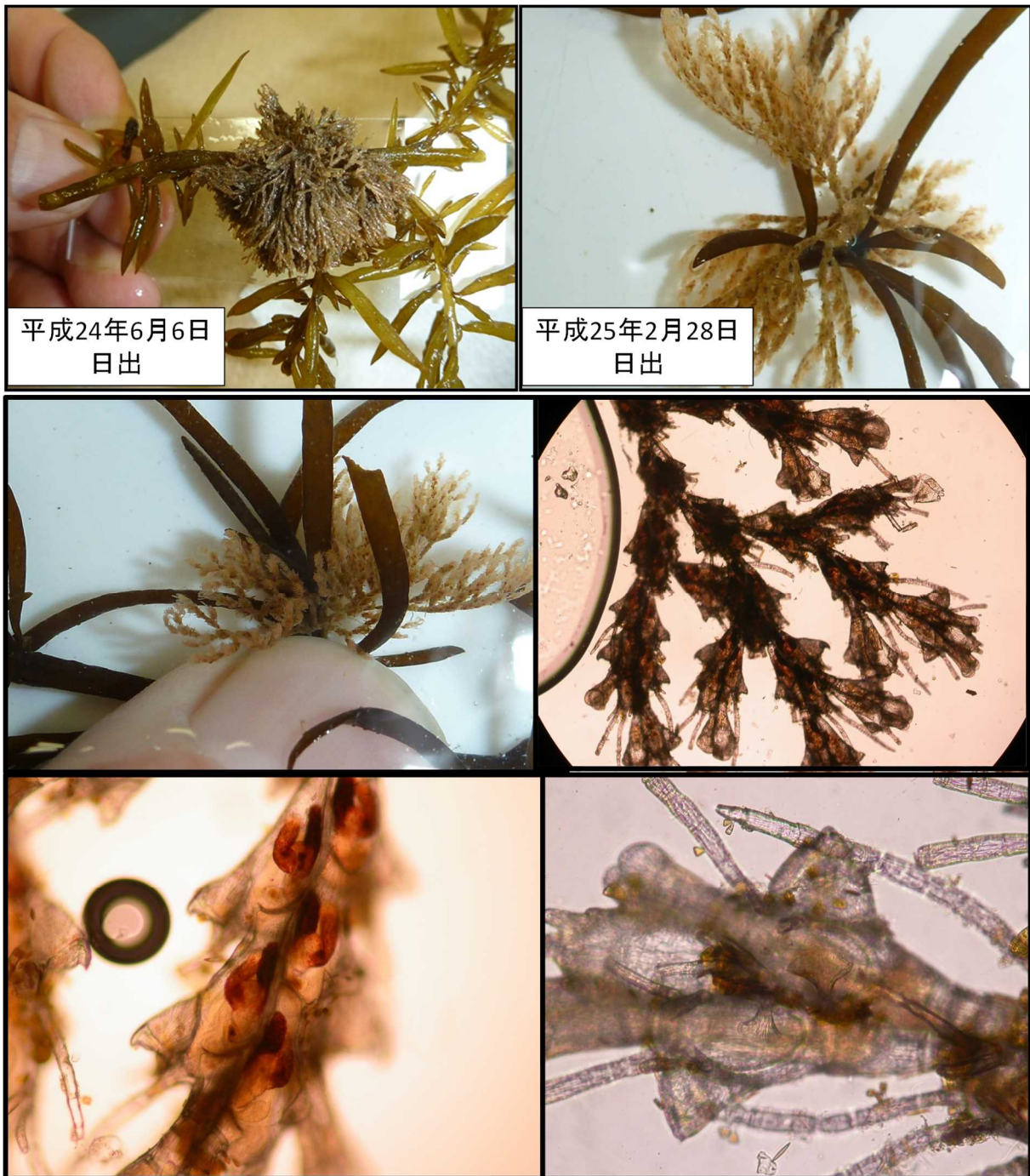


図VI-2 ヒジキへの付着がみられたフクロコケムシ類（触手動物コケムシ綱）

表VI-3 トゲコケムシ類（触手動物コケムシ綱）のヒジキへの付着率

調査点	H24年			H25年					
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
上浦	+	-	-	+	-	+	-	+	+
日出	-	-	+	-	+	+	+	+	++
国見	-	-	-	-	-	-	-	+	+

- : 0%、+ : 30%以下、++ : 60%以下、+++ : 100%以下



図VI-3 ヒジキへの付着がみられたトゲコケムシ類（触手動物コケムシ綱）

表VI-4 カンザシゴカイ類（環形動物多毛綱）のヒジキへの付着率

調査点	H24年			H25年					
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
上浦	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日出	-	-	-	-	-	-	-	-	+
国見	-	-	-	-	-	-	-	+++	+++

-:0%、+:30%以下、++:60%以下、+++100%以下



図VI-4 ヒジキへの付着がみられたカンザシゴカイ類（環形動物多毛綱）

乾燥中や保存中にヒジキの表面に白粉や白い綿状の物質が生じる（図VI-5）ことがあります。これは、食塩とマンニトール（糖）が成分¹⁸⁾とされています。藻類では、褐藻類がマンニトールを多く合成することが知られ、特に乾燥昆布の表面の白い粉は、マンニトールが主成分¹⁹⁾であると言われています。



図VI-5 乾燥したヒジキの表面に析出した白い粉状物質（食塩+マンニトール）